

# 地歴公民(日本史) 慶應義塾大学 商学部 1/1

## <全体分析>

試験時間 60分

### 解答形式

マーク式61問(語句選択61問) 記述式18問 論述1問 計80問

### 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数3題は変化なし。マーク式は3問増加して記述式が2問減少した。年代整序問題・正誤判定問題は昨年度と同様に出题されなかった。昨年度は例年出题されていた論述問題が出题されていなかったが、今年度は出题された。

### 出題の特徴や昨年との変更点

昨年度はテーマ史2題、近現代史1題の構成であった。今年度はテーマ史1題、近世史1題、近現代史1題の構成であった。時代ごとの大問の構成が年度ごとに変化するの、商学部の特徴である。

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 記述	原始～近代の日中・日朝関係史	問2(c)は東大寺のみをヒントに「奄然」を判断できただろうか。	やや易
II	語句選択 記述 論述	近世の流通網	問1(69)(70)「菱垣廻船」は頻出史料の内容をふまえて2つ目の空欄の箇所から判断できる。(75)(76)「地廻り物」は語群を吟味して判断したい。問2(d)「内海船(尾州廻船)」は記述形式だったので難しかったかもしれない。問3はやや難。物価の引きあげ以外の不正の内容を指摘するのは難しかっただろう。	やや易
III	語句選択 記述	オリンピックとその時代	問1(105)(106)「牧野伸顕」がパリ講和会議に全権として参加したことは知っておきたい。問2(b)「江崎玲於奈」はやや難。人物名は思いついたかもしれないが、記述することが難しかったかもしれない。問3(3)は「新渡戸稲造」の正確な漢字が書けただろうか。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

教科書範囲を超えた設問が見られることもあるが、それには固執せず、教科書の範囲内で解ける問題を取りこぼさないように学習することが肝要である。特に、商学部は記述式問題が多いので、歴史用語を正しく書く練習を欠かさないようにしたい。政治・社会経済・外交・文化をまんべんなく学習したうえで、頻出テーマである社会経済史・文化史については、少し詳しく確認しておくとい。